

第4回 ふくしま元気トーク まとめ

【開催概要】

日時	平成31年 2月 2日 (土) 午前10時～午前11時30分
テーマ	子育てしやすい環境づくり
場所	保健福祉センター 乳幼児健診ホール
出席者	中学3年生以下の子を持つ保護者の方 11名 (一般公募) (1) 佐藤 朋子さん (5) 広瀬 麻里さん (9) 今泉 智志さん (2) 齊藤 まつみさん (6) 浅野 真理子さん (10) 大坊 愛さん (3) 佐藤 秀樹さん (7) 内藤 圭祐さん (11) 石川 弘美さん (4) 金子 聡子さん (8) 高橋 彩子さん (福島市) 木幡市長



【1 市長あいさつ】

今、日本の社会では少子高齢化と人口減少が進んでおり、世界にない新しい局面を迎えています。福島県は、大震災・原子力災害という多くの課題がある中で、行政と市民の皆さんとで新しいまちづくりを進めていかなくてはなりません。

その中で、子どもたちに対する政策は重要であり、とりわけ今優先順位を1番にして取り組んでいく必要があると考えています。就任して1年1か月経ちますが、「子どもたちを取り巻く課題にチャレンジ」として、「待機児童対策緊急パッケージ」に取り組んでまいりました。待機児童の解消は、単に子育て支援に留まらず、母親の社会進出を促し、企業の人手不足にも効果がありますので、社会的にも重要な課題です。本市は一昨年の秋時点で待機児童が250人と、県内の待機児童の半分以上が福島市で生じていましたが、昨年春には半分まで待機児童を解消することができました。ただ、本市は学童の待機児童も県下で一番多い状況にありますので、新年度からは学童の待機児童解消にも対策を講じ、ゼロに向けて取り組んでいきたいと考えています。

また、市内学校のトイレの洋式化の状況はこれまで2割程度で、子どもたちは休み時間に洋式トイレに列をなしているような状況でしたので、全国でも例がないと思いますが、4年間で公共施設8割のトイレ洋式化を目指して進めております。さらに、かなり遅れていた学校のICT化を現在急速に進めるとともに、不登校や恵まれない家庭の子どもたちの対策についても取り組んでいます。

今後も子どもたちへの対策を充実させなくてはなりません。皆さんの家庭と同じで、予算を無制限に上乗せして取り組めるわけではありません。福島市をいかに豊かにできるか、産業を豊かにし、高齢者支援などとバランスよく取り組むことが重要です。いかに決められた予算内で有効な対策を効果的に行っていくかということが私のライフワークになりますので、皆さんのご意見を参考にさせていただき、場合によってはスクラップ&ビルドしながら、対策をきっちり講じてまいりたいと思います。

【2 保育施設について】

(1) 待機児童について

- ①少子化と言われる中で、保育園の待機児童が増えているというのは、働きながら子育てをするという

保護者の方が増えているためだと思う。まわりのお母さんの状況を聞くと深刻な方がたくさんいる。

- ②昨年11月に復帰予定だったが、保育所に入所できず、やむを得ず3月まで育休を延長した。認可外だし、上の子ども通っているから大丈夫かなと思っていたが、認識が甘かった。
- ③保育施設が増えているという実感はあるが、まだまだ足りないと感じている。
- ④住んでいる地区では子どもが増えてきているが、他の地域に比べ保育施設や幼稚園などが少ないように感じる。都市計画や人口増減に合わせて設置して欲しい。施設投資が難しいのであれば、認可外施設や企業内保育所の整備・支援という形でバックアップして欲しい。
- ⑤就学まで預かってもらえる施設をもっと増やして欲しい。3歳児までしか入れない保育施設もあり、満了したら次の預け先を探さなくてはいけない。育休を再度取得できないため、そのタイミングで入所できなければ職を失う。その手間や不安を解消して欲しい。
- ⑥私立の認定こども園の中には、受付日前夜から並ばないと入園できないと聞き、今から心配だ。
- ⑦こども園を増やしたことで、1号認定児（特に3歳児）が入所しづらくなっていると思う。私のまわりにも、入学願書受付2日前から徹夜で並んでも入れなかったという幼稚園もあった。待機児童は解消できている一方で、そのしわ寄せが1号認定の方に回ってきているという現状を理解していただきたい。
- ⑧認定こども園になるより、以前の幼稚園の方がよかったという親もいる。

(⇒こども育成課長)

1号認定が入りづらい、入所のために夜中から並ぶという話は職員からも聞いており、認定こども園にも夜中から保護者を並ばせないように話はしています。市もニーズ調査を行いながら、保育所や認定こども園を作っていますが、本日皆さんからお聞きしたご意見も参考にさせていただきたいと思います。

市長 保育施設に関しては、私たちも地域のニーズに合わせて、ニーズの高い地域には募集をかけてもらい、増やしていく取り組みをしています。公立の場合は、ニーズの少ない地域では、場合によっては廃止して、他の地域に移していく取り組みも行っていますが、どうしてもタイムラグは多少発生してしまうと思います。

平成31年度の保育所の受入人数は、去年の10月と比較し、470名増えることになっています。子どもの数は減っているものの、保育のニーズは去年の今頃と比較すると100人以上増えていて、我々もやってもやっても追いつかない状況ですが、何とか解消できるよう取り組んでいきたいと考えています。

(2) 無償化・保育士の待遇向上について

- ①保育士は、0歳児なら1人で3人、1歳児なら1人で6人見なくてはいけない。重労働だし、教育という面でも重要な役目を担っていると思う。
- ②私立保育園の保育士の給料はものすごく安い。40代になっても手取り15万円程度で働いている保育士も多い。
- ③事務仕事も多いが、基本昼間の保育中ではできないため、結局家に持ち帰ってやる場合が多い。
- ④子育て中の職員は自身の子どもも（別の）保育所に預けており、終業後に子どもを迎えに行き、ご飯を作って食べさせお風呂に入れ寝かせてから、やっと持ち帰った仕事に取り掛かる。子どもが好き

で保育士になったが、0～1歳児の高い保育料を払ってまで少ない給料で働き、自分の子どもを疎かにしているという葛藤から、潜在保育士になってしまう人も多いようだ。

- ⑤保育園を増やしていくという時代だが、まず保育士の環境を整えることが先だと思う。環境が良くならなければ、新しい保育施設ができて、保育士はすぐ辞めてしまうだろう。
- ⑥職場の人と話しているが、私たちは保育料を無償化にして欲しいわけではない。お金を少しでも出すことで、保育士・学童員の処遇が改善され、それが子どもたちのために繋がるのであれば、私たちは出したいよねと話している。そういった意見も踏まえ、改善につなげて行って欲しい。
- ⑦保育士不足については、無償化する前に、保育士の待遇を改善することで、確実に解消できると思う。無償化より、お金をもっと払ってでもいいから、その金額を保育士さんの給料に上乘せをしていただきたいと思っている。
- ⑧保育料が無償化されても、給食費は支払わないといけなとの話を聞いた。保育料が免除・減額されていた生活保護や低所得者の世帯では、今まで保育料がかからなかったのに、逆にこれからは給食費を月に何千円か払わなくてはいけなくなるだろうか。

市長 施設は今どんどん増えていますが、保育士さんが足りず、子どもたちの受け皿が不足しています。様々な要因がありますが、一つには保育士に対する給料面での評価が低いことがあると思います。私としては、まず国で保育士の給料基準を見直してから、保育無償化を進めるべきと国に対して申し上げているところです。

我々としても保育士の待遇を改善していきたいですが、市単独では、財政的な余裕がなくできません。一部の裕福な自治体や、難しい課題のない自治体では、「子育て支援」に特化し、保育士の給料引上げなどを行っているところもあります。本市では、公立保育園で働く非正規保育士の給料についてはあまりに低過ぎましたので、民間を圧迫しない程度に給料を見直したところです。

現在市では、保育士の働く環境について、様々な現場の人たちの声を聞いているところですが、保育士が辞めてしまう原因は、給料面のほかに、保育施設のマネジメントにより働きづらくなってしまい、それが原因で辞めてしまう保育士もかなり多いようです。そこで市では、保育所や幼稚園の園長や主任クラスの方々に研修を対象に研修を行い、保育士ができる限り気持ちよく働ける環境を整備することにより、早く現場に復帰していただきたいと考えています。

それから、保育料が無償化されれば、国から保育施設に一定の支援が出ますから、経営はだいぶ楽になるはずです。「保育料に多少上乘せがあってもいいから、保育士の方の処遇を良くしてください、いい保育士を雇ってください、サービスを良くしてください」といった要望は、施設利用者である皆さんの立場でも、ぜひ施設側と話し合っていたきたいです。

(3) 一時預かり施設、子育て広場、子育て支援センターについて

- ①子どもを一時的に預けたくても、一時保育は1か月前に電話しないと予約できない、ファミリーサポートはマッチングが成立せず利用できない、市内に頼れる親戚などもないため、誰にも預けられなかった時があった。北関東にある地元では、まちの中心部に市が開設する一時保育施設があり、前日

に電話すれば1、2時間は気軽に預けられるなど、とても便利だった。そういった施設があれば便利だと思う。

②子育て支援サークルで代表を務めているが、当然ボランティアとして運営している。どうしても必要な場所代や光熱費、保険代は利用者の方からいただいているが、それ以外の経費は子育て支援をしたという方の持ち出しになっているため、そのあたりの支援をお願いしたい。

③子育て支援センターの多くは保育施設の中にあり、曜日や時間が限定されていたり、予約が必要だったり、毎日いつでも好きな時に利用できるわけではない。お母さんたちが気軽に参加するということが難しくなっているため、いつでも行ける子育て支援センターの開設を検討していただきたい。

(⇒こども政策課長)

現在市内では、23カ所の支援センターがあり、保育所や認定こども園に併設するかたちで運営していただいています。市では、月曜から金曜、または月曜から土曜日まで開所するようお願いし、小さい子向けのプログラムや、未就学児全体を対象にしたプログラムなど、センターごとにいろいろ工夫をこらしていただきながら運営していただいています。

施設の収容能力に限りがありますので、多くの利用者が集中していらっしゃるとご迷惑をおかけしてしまうことから、事前予約制をとっているセンターが多くなっているのが現状です。ただ、地域ごとにバランス良く配置しているメリットをこれからも活かしていきたいと思っておりますので、本日のご意見も踏まえながら、各センターがもっと利用しやすい環境になるように、今後進めていきたいと思っております。

市長	<p>保育所などで一時預かりを行っていますが、今は人材の確保が難しいため、なかなか対応しきれない状況にあります。全体としてなかなか進まない理由に、「体制不備」の問題があり、「一時保育」のみの機能の施設については、他の保育施設のように様々な機能がないので、規模として不安なところがあります。</p> <p>私が香川県庁で児童家庭課長として勤めていたときは、自宅は「こはた保育園」と呼ばれ、お母さんたちと子どもが集まってよく遊んでいたんですよ。うちの奥さんがいないときもお母さんたちが家にいて、子どもを預かったり預けたりということをやっていました。全部を行政に頼るのではなく、地域で結びついて助け合うということも大切なのではないかと思えます。私も転勤族でしたので、転勤族のお母さんが集まってということもありましたし、ぜひそういった繋がりも作っていただきたいと思えます。</p>
-----------	--

【3 学童について】

(1) 利用料について

①学童クラブによって利用料が違うので、他市のように一律の利用料にして欲しい。

②福島市の利用料は、周りの市町村と比べ高いという批判は否めない。無償化や一律料金の実現はすぐにはできないと思うが、利用料金の軽減策、例えば、私が勤める学童クラブでは2人以上の子どもを預かる場合は利用料の上限を設け、年間20万円くらい減免をしているが、その減免分の補てんする仕組みなどは市でも実現できないか。

- ③夏休みなどに長期で働こうとしても、学童の利用料が1日2千円近くかかってしまうので、だったら働かずに家にいた方がいいという現状がある。もう少し働きやすい環境になって欲しい。

市長 学童の待機児童解消については、新年度には新たに8施設の開所を予定しています。

福島市では学童クラブの運営費の一部を支援しています。利用料については、なぜ学童によって差があるのかというと、学童保育の内容に差があるためです。本来であれば学童保育の内容によって、皆さんが自由に学童を選べればいいですが、お住まいや学校の地域により、利用できる学童が限定されてしまっている現状があると思います。

保育料を無償化するのだから、学童も無償化すべきだというご意見もあると思いますが、子育てに関することは必ず無料にしなくてはいけないということではない。今回は国全体で軽減策が協議される中で、保育料の無償化が議論され、それにより、これまでより子育てに関する負担を減らすことができるようになることを、まずはご理解をいただきたいと思っています。

【4 地域での子育て】

(1) まち全体による子育て支援について

- ①先日の虐待の事件もそうですが、高齢者に限ったことではなく、深く入り込まなくてもいいから、誰がどこに住み、どのような状況かということ、地域みんなで気に留めていく体制を作りたい。虐待などのニュースを見るたびに、一人が一人の子供を育てていくということではなくて、周りのみんなですべて育てる福島市になって欲しいと考えている。
- ②ずっと教育に携わってきたが、1人の子を小さい時からずっと「縦」でみていくという教育が必要と考えている。例えば、保育園の保育士と小学校の先生と交流する場があるといい。
- ③引っ越してすぐ、「こんにちは赤ちゃん訪問」で来てくださった方に、子育て広場を紹介してもらった。最初は市内に頼れる人が誰もいないし、当時2ヶ月の子どもと一緒に出かけること自体大変だったが、早めにそういった場と繋がることで、たくさん声をかけてもらい、同環境のお母さんたちの友達が出来たことが支えになった。中にはそういう場に出向くのが難しい方もいるだろうし、どこに行けばどうだということも分からない方もいると思うので、地域や周りの方々が繋がっていくことが大切だと感じた。
- ④他市ではやっているのに、福島市ではやっていないという取り組みが結構あると思う。近隣の市と比べても奥手奥手になってしまっている傾向があるので、むしろ福島市が全国に先駆けて初めて取り組むと注目されるような政策を行っていただきたいと思っています。

市長 少し自慢をさせていただくと、皆さんがお持ちの「ファミたんカード」を日本で最初に作ったのは私です。香川県庁にいたときに作って、全国に普及したものです。その時の私の発想は、「何でも行政がやるのではなくて、社会的にみんなが子育てを応援するという仕組みを作りたい」とブレインストーミングをしていたときに、ある男性の「赤ちゃんと外出するとミルク用のお湯が重い」という一言と、「コンビニのラーメン用のお湯をどうぞとってもらえるだけでだいぶ楽になるよね」という私の一言から始まり、一つのお店が何かしら子育てサービスすれば、子育てしやすいまちになるのではと、「みんな子育て応援団」と名

付けてお店を増やしているうちに、それが割引だなんだと良くなっていきました。そういう取り組みをぜひやっていきたいと考えています。

行政では様々なことを行っていますが、私自身、福島市を分析した結果、とにかく福島市は地域色が強いと感じています。他市から転入された方はお気づきかと思うのですが、地区ごとに支所と学習センターがあります。今この施設を建てようとするれば、10億円規模の予算が必要です。各地区の施設やサービスが充実している分、他の部分で制約を受けたり、しわ寄せがあることは間違いありません。

また、福島市はこれまで斎場の利用が無料でした。他市から転入された方は驚かれると思いますが、実は斎場の利用が無料の自治体なんてありません。平成31年度より新しい斎場が稼働となりますが、適正な負担についてはきちんとお願いしないと、そのしわ寄せが他の部分に出てきますから、このたび有料にさせていただきました。

本市から若いご夫婦などが出て行かれる傾向があります。家を建てるには市内は地価が少し高く、また待機児童が発生していれば働けないし、働けないと家のローンが払えないという状況から、市外に転出しているのではないかと考えています。

いろいろ複雑に重なっていますので、一気に進めることは難しいですが、一つ一つ紐解きながら進めていくことで、子どもたちにとって良い地域をつくっていくことが、ひいては福島市が豊かになると考えていますので、頑張っていきたいと思っています。

(2) 障がい児について

- ①障がいがあってもなくても、一緒に学び、一緒に暮らせる環境が必要だと感じている。障がいを分かってもらい、差別なく、同じ人間として一緒に遊び、一緒に暮らしていける社会であって欲しい。
- ②障がいをもった子どもがおり、学区外の養護学校に通っているため、地域と繋がりたいと感じているものの、なかなか繋がれない。以前住んでいた市の支援学校では、障がいがあっても、例えば音楽や体育などの科目や給食の時間は地域の学校に通うかどうか、入学時に選択できるシステムがあった。福島市には、養護学校に一般の学校の生徒が来てくれたり、団体で一般の学校に行く交流事業はあるが、個人的に地域の学校に通うというシステムはない。そういったシステムがあれば、町内会のイベントでも顔見知りの子どもの数が増え、地域的な繋がりができるのではないかと考えている。

市長 そのシステムが、市全体のシステムなのか、その学校独自のシステムなのか分かりませんが、役所というのはどちらかと言うと、きっちり一律に進めたがる傾向があり、緩やかな連携というものに弱いです。そういった面から、このような場を設けているのですが、コアな待機児童という問題をしっかり取り組んだ上で、地域の連携についてはきめ細やかに充実させていきたいと思っています。

先ほどもお話しましたが、福島市は地域の繋がりはとても深く、私が住んでいる町でも先日餅つきをやりましたが、通っている学校は関係なしに子どもたちは自由参加できます。ぜひそういった場にも積極的に出て行っていただきたいと思っています。

【5 その他】

(1) 屋内遊び場の充実などについて

- ①さんどパークをよく利用しており、大変ありがたい施設だと感じている。しかし、今後屋内遊び場がなくなる可能性があるという新聞記事を読み不安になった。今後も屋内遊び場は継続して欲しい。
- ②子どもと一緒に利用する施設は、トイレの便座や手洗い場などが少し低くなっていると利用しやすい。

市長 「さんどパーク」は当初放射線対策で作った施設ですが、実は利用者は年々増えている状況です。放射線の心配がなくなっても、猛暑や冬の寒い時期には、屋外より屋内の施設で遊びたいというニーズが高くなっているからだと思います。

今般、市内の公共施設を見直す機会に、耐震化が十分ではない施設を廃止して、様々な施設と再編・統合していく話をしています。「さんどパーク」がある市民会館も、「さんどパーク」がある部分は問題ありませんが、建物全体の耐震性が十分ではないため、今の建物内で継続していくことは難しいと考えています。

一方で、屋内遊び場の利用者が増えている状況から、単純に廃止することはできないと考えていて、どこにどのような形をつくったらいいのか、例えば児童公園であれば屋外・屋内と両方の遊び場ができるようにする、またはぴよんぴよんドームや四季の里、今度つくる「道の駅」に併設するなど、いろいろなアイデアがあると思いますので、利用者を含めいろいろな方々のご意見をお聞きして進めていきたいと思っています。

(2) 相談窓口について

- ①ひとり親の相談窓口がない。
- ②子どもの発達が気になり、小学校入学前、子育て支援係にいろいろ相談していたが、小学校入学を機に相談先が教育委員会に変わってしまい、また一から同じことを相談することになるが、引き継ぎなどの連携はとれないのか。
- ③入学前に小学校の校長先生に相談することがあったが、公立なのに各小学校で対応がまったく違うことが気になった。福島市では自分の意志では学区を替えることができないので、校長先生と方針が合わないはどうしようもない。他の保護者からもそういった状況は聞いているので改善して欲しい。

市長 市役所内には「子育て相談センターえがお」という相談窓口を設けていて、妊娠期から子育て期まで切れ目のない総合相談窓口になっています。我々も市民の皆さんに周知して、利用していただけるような努力をしていかななくてはなりませんね。

(3) 子育て応援手当について

市長 逆に皆さんからお聞きしたいのですが、福島市は独自で「福島市子育て世帯応援に係る手当」として、中学3年生以下のお子さん1人につき年額1万円を支給しています。

しかし、「1年で1万円だけもらっても実感がない」「もらってもほかの収入と一緒にあって、『子育て応援』になっていない」というご指摘もいただいているところです。

本日皆さんからいろいろなお話をいただきましたが、現金給付か、もしくはその分サービスを充実させるなどの現物給付にするか、もちろん両方あればいいのですが、皆さんにとって助かるのはどちらなのでしょう。

- ①支給する手続きを考えたら、現物給付でもいいと思う。
- ②その手当を支給するための費用も発生するなら、ほかのことに使った方がいいと思う。申請する方も記入して郵送・持参する手間、役所も事務処理する手間があって、その手間が支給額に見合うのかを考えたら、別の子育て支援や学校のために使った方がいい。
- ③3人の子どもがいるので1年間に3万円をもらっているが、現金給付はなくてもよい。その分の予算を集めて、保育園や小学校などの施設整備費に充ててもらいたい。
- ④支給要件により支給を受けたことはないが、夫が単身赴任のため、自分一人で子育てしている。預ける施設がないという問題は、手当をいくらもらっても解決しないので、とにかく預けられる施設を整備して欲しい。また、施設の人材の資質向上というところに使って欲しい。皆さんに平等に行き渡るところに、税金を使って欲しい。

(4) その他

- ①朝の通学時、交通安全の旗持ちで通学路に立つことがあるが、本来通行できない時間帯の道路に、許可証のない車両がものすごいスピードで走り抜けていくことがあるので、警察で時々見回って欲しい。
- ②冬は通学路が凍っていて不安なので、整備して欲しい。
- ③人材は保育施設のみならず、福祉施設も不足している。施設は建てたいが、福祉職の人材が集まらない、離職率が高いなどの問題もある。子ども、高齢者や障がい者など、人に関わる仕事の楽しさ・生きがいについて学校教育に取込む施策があれば、将来、人に関わる分野の人材が増えるのではないか。
- ④「こはた保育園」はとてもいいお話だと思うが、開放できる自宅がないなど、そういう場所をもっていない人はどのように始めればいいのかも考えて欲しい。
- ⑤市内には教育系の学科がある大学が3つ（福島大学・桜の聖母短期大学・福島学院大学）あるので、官学連携で教育政策を考えていくべきである。他県では県や市が教育機関と連携し、子育て支援センターや講演などを行っている話も聞くので、各大学の知識と経験を活用できる連携も考えていただきたい。
- ⑥2人の子どもを育てているが、上と下の子の数年の間にも、様々な変化は感じていて、課題がある一方で、待機児童の削減や充実してきている支援もあるので、これからも自分の意見は伝えていきたい。
- ⑦今日の意見交換がこの場だけで終わらず、次につなげていただきたい。

市長 昨年、市内の大学と「産官学連携プラットフォーム」をつくりましたので、実際にいろいろな面で連携しているところです。

保育士の掘り起しなどについても、実は今大学のOB会などの機会にお願いをしています。市では今、「ふくしま市保育人材バンク」を立ち上げ、保育士免許があるが今は働いていないという方に登録いただき、何かの折に就労を促していく取り組みをしています。

本日は、無償化をしなくてもいいから、もっとお金を払ってもいいから、保育士の処遇を改善して欲しいという大変心強いご意見もいただきました。私自身、待機児童解消問題でいつまでも立ち止まっていたくありません。今は子どもが少なくなっていて、お母さん方も子どもにかける夢もあると思いますから、今後は、保育園・幼稚園ごとに個性のある施設をつくっていきたいと考えています。フィギュアスケートで活躍されている紀平さんも、小さい

ころからバンバン運動させる施設に通わせていたそうですから、私自身としては早く保育園に入る入れないの段階を脱して、次のステップとして、そういった特色ある施設を福島市にどんどん作っていきたいと考えています。「子育てをするために福島市に移り住むんだ」と思ってもらえるくらい、福島市を子育てしやすいまちにしていきたいと考えています。

【参加者の感想】

- ①子育ての中でちょっとした困りごとや疑問などの情報共有をアットホームにするような会だと思っていましたが、実際は行政や保育教育に携わっている方たちばかりでした。募集の段階で、大きいテーマでの意見を聞きたいのか、子育て中の人向けなのか、子育て事業に携わっている方なのかなど、対象者を絞った方がいいと思いました。また、対象者が0歳から高校生を持つ親でしたが、待機児童や保育無償化の話だと、もっと対象年齢を下げて募集するなどの工夫も必要だと思えます。
- ②出席者同志の意見交換もしたかったです。このような会をぜひ続けてください。出来れば教育関係者の意見交換会もあると良いなと思いました。
- ③様々な職種や立場の方が集まる大変貴重な機会だったと思います。ただ、時間の都合上あまり話が広がりずもったいないような印象を受けました。話足りないような方もいらっしやったようにお見受けしました。有識者会議のようになってしまったので、「広く声を聴く」という趣旨の事業であればもう少し一般的な子育て世代の主婦の方が多く参加されても良かったのではないかと思います。
- ④とてもフラットに市民と向き合い、親身になって耳を傾けてくださる木幡市長の姿勢とお人柄に、子どもたちを安心して育てられる福島市の未来が見えました。
- ⑤大変良い機会になりました。あの人数ではスムーズに進めたかと思えます。今後も定期的で開催し、進捗状況を直接確認出来たらと思えます。
- ⑥今回は全員が話すと持ち時間が短い気がしたので、もう少し人数を減らすか、話す人を大まかなテーマ毎にまとめるなどの進め方があるといいと思います。また、周囲に「ふくしま元気トーク」を知っているという人がほとんどいなかったの、少し告知不足なのではないかと感じました。

